



BCJ 評定-ST0075-02

評 定 書

JFE 建材株式会社
代表取締役社長 谷 一浩 様



財団法人日本建築センター
理事長 石 真

平成19年6月22日付けで、評定申込みのあった下記の件について、当財団鋼構造評定委員会（委員長：田中淳夫）において慎重審議の結果、平成14年8月8日付け評定報告書（評定番号：BCJ 評定-ST0075-01）のとおり、本件は、申込みの範囲において、建築基準法令、その他の技術規準等及び当委員会が定めた基準に照らし、適正なものであると評定します。

なお、本評定書の有効期間は、本評定日より平成24年8月7日までとします。

平成19年6月22日

記

1. 件 名 QL99 合成スラブ構造
2. 評定事項 標記工法の構造安全性について
3. 評定区分 更新
4. 変更内容 ①会社名及び代表者名の変更
②JIS G3352の改正に伴う内容変更
③デッキプレート床構造設計・施工規準の改正に伴う内容変更
（内容の詳細は別添のとおり）
上記項目以外は既評定報告書（BCJ 評定-ST0075-01）のとおり。



評定更新前後の変更内容比較表（技術的な変更は無し）

- 件 名：QL99合成スラブ構造
- 既評定番号：BCJ評定-ST0075-01
- 既評定年月日：平成14年8月8日
- 会社名：川鉄建材株式会社

項目	既評定	変更後	該当箇所
1. 会社名の変更 合併による変更	川鉄建材株式会社	JFE 建材株式会社	既評定報告書 (P1/4) 既最終版図書 (P.18)
2. 代表者名の変更 合併による変更	増田光一	谷 一浩	既評定報告書 (P1/4)
3. 所在地等の変更 合併による変更	〒651-0075 神戸市中央区北本町通 1-1-28 TEL (078) 232-5800	〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-10-15 TEL (03) 5644-1200	—
4. 使用材料の変更 JIS G3352 改定に伴う変更	5. 「寸法許容差及び重量並びに重量計算法」	8. 3. 「寸法許容差」及び 9. 「重量及びその許容差」	既評定報告書 (P3/4) 既最終版図書 (P. 2)
		デッキプレート材質として SDP1TG を追加。 表 3.4 中に SDP1TG 追加。 表 5.1 中に SDP1TG 追加。	既評定報告書 (P3/4) 既最終版図書 (P. 2) 既最終版図書 (P. 7) 既最終版図書 (P. 10)
	板厚許容差 材料種別毎に引用 JIS 内容を準用。	材質に係らず -5% に統一。 板厚許容差の表を削除。 化学成分、機械的性質の表を訂正 (JIS と同じ)。	既最終版図書 (P. 17)
	「亜鉛の付着量」 めっき付着量 Z12, Z27 のみ	「めっきの付着量」へ変更 めっき付着量仕様の追加併せて相当めっき厚さの表を追記。	
	長さ許容差 指定長さ ±5mm	7m 以下 +40mm, -0mm 7m を超えるもの 長さ 1m 又はその端数を増すごとに、上記のプラス側に 5mm を加える。	
SDP3 について記載漏れ。 引用していた JIS を表記。 欄外の注 1~3	SDP3 について追記。 削除。(参考 JIS 部分) 注 1 を削除、番号変更して、注 1~2 とする。		

項目	既評定	変更後	該当箇所
5. 設計法の変更 デッキプレート 規準改訂及び法 改正に伴う変更	<p>「デッキプレート床構造設計・施工規準」(1987年)の完成時のたわみ算定式</p> $\delta = n \cdot \frac{5}{384} \cdot \frac{L W_{TL} \cdot l_x^4}{s E_f I}$ <p>記号 δ : たわみ (cm) n : コンクリートに対する鋼材のヤング係数比 (普通 $n=10$, 軽量1種 $n=14$, 軽量2種 $n=18$) I : 合成スラブの全等価断面二次モーメント (cm^4) $s E$: 鋼材のヤング係数 (N/mm^2) $L W_{TL}$: 完成時の全荷重 [$W_{DL} + W_{LL}$] (N/m) l_x : 強辺方向のスパン長 (cm)</p>	<p>「デッキプレート床構造設計・施工規準-2004」(2004年)の完成時のたわみ算定式</p> $\delta_c = \frac{5}{384} \cdot \frac{\omega \cdot l_x^4}{s E \cdot (c I_n / n)}$ <p>記号 δ_c : たわみ (mm) n : コンクリートに対する鋼材のヤング係数比 $n=15$ $c I_n$: 合成スラブの有効等価断面二次モーメント (mm^4) $s E$: 鋼材のヤング係数 (N/mm^2) ω : 完成時の全荷重から合成スラブ自重を差し引いた荷重としてよい。ただし、コンクリート打設時に支保工を用いる場合は全荷重とする (N/m) l_x : スラブ強辺方向のスパン長 (mm)</p>	既最終版図書 (P.13)
	「6.2 合成スラブのたわみ算定」	「6.2 デッキ合成スラブのたわみ算定」	既最終版図書 (P.13)
	記号説明なし。	3 連梁時施工時のたわみ算定式の追記。 記号説明の追記。 b_0 : デッキプレートの圧縮を受ける平板部の幅 (mm) b_c : デッキプレートの圧縮部分の有効幅 (mm)	既最終版図書 (P.13)
	許容耐力 (4)点溶接 文章・表 3.9	従前部分をすべて削除。新たに(4)打込みびょうとして追記。(デッキ規準と同じ)	既最終版図書 (P.8)
	スラブの配筋 2cm以上 3cm以下	3cm	既最終版図書 (P.2, P.12) 既評定報告書 (P3/4)
6. その 他の	会社名の変更に伴い削除 川建 QL99-50 川建 QL99-75	QL99-50 QL99-75	既評定報告書 (P2/4) 既最終版図書 (P.1)
	誤字の訂正 第1446号別表第1(3)	第1446号別表第1(ろ)	既最終版図書 (P.2, P.5) 既評定報告書 (P3/4)
	JIS規格の名称変更 「JIS G3551 溶接金網」	「JIS G3551 溶接金網及び鉄筋格子」	既最終版図書 (P.2, P.5) 既評定報告書 (P3/4)
	デッキ規準改訂による数値変更 表 3.5 せん断許容応力度 $F_c/30$ かつ $(0.5 + F_c/100)$	$F_c/30$ かつ $(0.49 + F_c/100)$	既最終版図書 (P.7)



BCJ 評定-ST0075-01

評 定 書

川鉄建材株式会社
取締役社長 増田 光一 様

財団法人
理事長



日本建築センター
立 石



平成14年8月8日付けで、評定申込みのあった下記の件について、当財団鋼構造評定委員会（委員長：田中淳夫）において慎重審議の結果、平成14年8月8日付け評定報告書（評定番号：BCJ 評定-ST0075-01）のとおり、本件は、申込みの範囲において、建築基準法令、その他の技術規準等及び当委員会で定めた基準に照らし、適正なものと評定します。

なお、本評定書の有効期間は、本評定日より平成19年8月7日までとします。

平成14年8月8日

記

件 名 QL99 合成スラブ構造

評 定 内 容 標記工法の構造性能について

